

供アリ、次第に御前を撤す、御さげなほしはりばかまをもぬがせ給ひて、小袖に赤すべしの御は
かま、垂纓組がけはもとのまゝにて、西の一帖の御座にうつらせおはします、此間におしも兩三
輩ひさしに出て、女中男のこさかづきをしためおくたの御はんは御手長の御しも便宜の所
に置もとはゆどの、上におかれしよし也、回祿已後は、里内のことの外に狹少の事なれば、萬^ダ
を清涼殿ひとつにてと、のへられしほどに、御ゆどの、うへも御殿の内とあり、此時の事也、是
も便宜の所也、はいせん手ながおのくきぬをばぬきて、常の小袖にはかまばかりを著す、はだ
には白きねり貫紅梅二を重てきる、如^シ此の時、毎度^{シテ}おのく著座のちはいせんの人座を起て、
母屋の北の間をへて御前にす、む右の方南の方へそばみて候す、手長^右の内侍同じく座を立
て、御前にひざまづきて候す、御しも御盃を持て、申の口より庇に出て、ひざまづきて手長のない
しにさづく、内侍とりて、れん臺にのぼりて、はいせんの人にもゐらす、はいせん御前におく、次に
初獻^{三ツ}を供す、御さかづき御左方へおし寄て、初獻をたゞしく御前におく、次てうしをもてま
る、三盃の時御箸をとらす、御さかづきをとらしめ給ひて参る、此間に手長の内侍、廊にある
小さかづきの御はん^{中央に供御あり}をとりて、母屋の南の間をへて、れん臺の中央の東のはしら
のもとにおく、陪膳御盃をてうしにすゑてす、みより、第一の人の座前におく、もとの座につく、
手長のおしもす、みよりて次第にとほす、次に御盃もて参る、初獻の如し、陪膳よりて御前の御
はんにすう、次に二獻^{ばう}を供す、三ツ肴を御右の方へおしやりて、二獻を中央におく、次にてう
しをもて参る、御箸くだりて御盃参る、一に次第にとほりて又盃出づ、此度は上膳より勾當内侍
まで、天盃を玉ふべき料に、其數あいの土器を重ぬ、重ねながらとりて御はんにすう、三獻^{御ま}を
供す、二獻を撤して三獻を中央におく、次に手長の内侍てうしを自散のもとにもて行て、とそ白
さんを入れて後はいせんのもとにもて参る、御箸くだり御盃参る、三、三獻めに御くはへあり、御前